

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 2月24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103676		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい本浦		
所在地	広島市南区本浦町27-18 (電話) 082-508-2626		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470103676&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年3月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域との関わりを大事にし、事業所も少しでも地域に貢献出来るように、公園掃除等に積極的に参加し交流している。利用者様全員が毎日生き生きと過ごして頂けるように、職員全員が優しい気持ちで接する事を、心掛けています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none">・このホームでは、外出支援について特に力を入れており、年に1~2回、入居者の希望を募り、1泊2日または2泊3日で旅行を企画し、家族や職員も一緒に同行している。・日々の外出支援でも、散歩や買い物、墓参り、通院介助などを職員が同行して行っている。・また、終末期の対応については、現在までに5名の方を看取っており、重度化した場合でも、入居者、家族の希望があれば最期まで対応できる状態を医師、職員、家族などで話し合っ作りあげていることが特徴である。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業独自の理念を作っている。その中の1つに地域に密着したサービスを提供すると掲げている。又毎朝職員全員で唱和している。	毎年度の事業計画と方針を立てて、毎朝の朝礼で22年度の基本方針が書かれた紙を持ち、職員で唱和している。基本方針の中には、「地域の中のグループホームであることを大切に、地域に密着したホームであること」という項目を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会へ加入しており、役員や公園掃除・行事等積極的に参加している。	毎月5日に公園の清掃を、町内会の方と一緒に、職員と参加できる利用者で行って交流を図っている。また、月1回民生委員が中心となっていく、地域のサロンに職員と利用者が参加し、体操や手作業などを行い、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域サロンや運営推進会議を利用しお話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は奇数月に町内会長、民生委員、利用者様、地域包括支援センター等が参加し、開催している。会議では事業所の報告とともに、質問、意見等を受け双方向的な会議をしている。	運営推進会議では、ホームでの行事の報告や、利用者の状況などについての報告をしている。町内会長より地域での行事の報告などもある。家族に対して会議への参加を呼びかけているが、参加されていない状況である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	集団実地指導の研修機会や事業所のケアサービス等について協力を得ている。	運営推進会議の議事録を持参する際に、ホームの近況報告などをして情報交換している。また、市（区）が主催するグループホームの職員を対象とする研修に参加し、交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	職員全員社内研修を受け学んでいる。入社時には誓約書をかわしている。日中も玄関のドアには鍵をかけず開放している。	グループ全体の年間研修計画の中に、身体拘束についての研修も含まれており、新任、現任を問わず、参加し、身体拘束を行わないケアについて学んでいる。また、施設には夜勤時間帯には職員1名になるため、玄関に施錠をしている。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	日々のケアの中でお互いに注意を払い防止に努めている。虐待はありません。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	研修に参加している。必要な人には支援している。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に十分説明を行っている。契約書書面にも詳細に説明している。同意の署名、押印頂いている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族の面会時等に管理者が要望等を聞く機会を設けている。	意見箱に投書されている場合は、本部の事務長が鍵を開けて、中身を確認している。例えば、年末年始の帰省や結婚式などの外出外泊などの相談があり、ホーム内で検討し、実現させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング時や日々の職員の意見や提案を聞いている。意見を検討しサービス向上へつなげている。	年2回、職員より意見書をもらい、代表者が面接をしている。運営に関することや、職場での悩み、異動希望などを聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の実績に合わせて毎年5月に昇給している。又、能力に応じて委員会や役割を与え、やりがいの、達成感を感じてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に社内研修をしている。又、力量に応じて社内異動を行ったりし、個々のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	南区のエリア内研修やグループホーム協会等の研修に参加し交流、意見交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に面接を行い思いなどを細かく聞いている。又、慣れられるまでは、関わりを多く持ちゆっくり時間を作りお話をする様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面会時や介護計画作成前に要望をお聞きし介護計画へ取り入れ、取り組んでいる。誕生会等の参加を促し家族との関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人と家族よりしっかりとお話を聞き、必要なサービスを見極め、他サービスとも連携し支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>何かして下さった時には、「ありがとうございます」と感謝の気持ちでお礼を言い、うれしい時には、一緒に喜んだり家族を思う心を持って接している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>一緒に支えていくという思いを持ち、両方がより良い関係でいられる様に間に入り、支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>同窓会、墓参り、結婚式等に同行している。</p>	<p>同窓会には、家族が同行できない場合には、ホームの職員が付き添って行っている。また、墓参りや、子供の結婚式なども職員が付き添い、ご本人の希望に沿うように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	相性に考慮し、食堂の席を決めている。又、ソファを2ヶ所設置しており、関わりが持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後も様子を伺い訪問したり、関係が断ち切れない様に他サービスとも連携し、行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中で、想いや希望などを聞く様にしている。	センター方式のすべての項目を活用し、本人・家族の希望を把握している。4ヶ月に1回、再アセスメントを管理者、介護支援専門員、担当職員で行って意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にバックグラウンドを聞いています。又、面会時を利用し細かい事などを聞き、記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントに細かく記入している。把握し介護計画に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意見をしっかり聞いている。その上でケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族を希望を基に、管理者、介護支援専門員、担当職員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。また、4ヶ月に1回、本人・家族を希望を聴き介護計画を見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>細かく記録を記入している。大事なことは赤字で記入している。日々の気づき等は申し送りノートに記入し、情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>要望に応じ、他事業とも連携を図り支援するようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員の訪問。中学生・専門学校生の職場体験等に協力・支援している。月1回、生き生きサロンに参加し地域の方と楽しみ、活動している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回の協力医療機関からの往診他、診療科目によっては、入居前のかかりつけ医から、引き続き医療を受けている。</p>	<p>現在は、入居者全ての方が、協力医療機関からの週2回往診となっているが、希望があれば以前からのかかりつけ医の受診も可能である。また、認知症の専門医への受診も、家族が困難な場合、職員が付き添うように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の配置はないが、本部の看護師や、上司にいつでも相談できる環境にあり、適切な指示を受け、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、1日1回必ず様子を見に行くようにしている。手術等の時には付き添いをしている。又、病院関係者とも情報交換する様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前に重度化した時や看取り実施時の指針を家族に説明し同意を得ている。また、状況の変化とともに入居者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を行っている。	終末期に向けた対応については、入居前に家族・本人とよく話し合い方針を共有している。また、看取りも行っており、開設より現在までに5名見取りを行っている。慢性期の在宅酸素や点滴が必要な場合でも、ホームで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルを作成している。又、初期手当て等の研修を行い、実践につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っている。地域の方と一緒に避難訓練している。	避難訓練には、町内会の方も参加し、協力して行っている。運営推進会議では、職員から民生委員の方や町内会の方に協力してもらえるように説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として尊重し、職員の言葉掛けや、態度はやさしい雰囲気です接する様に対応、指導している。	面会記録簿は、家族ごとに記録用紙を分けて、個人情報に配慮している。接遇研修を新人・現任を問わず、実施している。また、入居者の各部屋には、下の名前のみ掲示しており、他の家族の方が面会に来られた際も特定できないような配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつ時の飲み物や、散歩、旅行、衣服等で本人の意思決定を援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	急がせたりする言葉はなくその人のペースに配慮し、ゆったりと一日を暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望の美容院へ同行している。又、行事等は化粧をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成時、お聞きしメニューに取り入れるようにしている。野菜の皮むきや、盛り付けなど職員と一緒にやっている。	食事のメニューは、利用者の希望を聴きながら、職員が1週間分作成している。月に1回は、外食を行い、楽しんでもらうように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	摂取量を細かく記入している。食事量が少ない時にはラコールを摂取して頂いたり、バナナなどを食べて頂いている。水分量にも気をつけ摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨きをして頂いている。出来ない方には、ハミングットなどを利用し、口腔ケアをしている。義歯の方は夜間ボリデントについている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行っている。	日々の個別記録に、排泄状況を記録して排泄パターンを把握しており、トイレ誘導の声かけをしている。パット使用している方には、濡れないうちに、早めに声かけをしてトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時に牛乳を飲んでいただいている。又ヨーグルト等乳製品を朝食に取り入れたりしている。日中は散歩等運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	日曜日以外はお風呂を沸かしている。希望の方は毎日でも入浴して頂いている。季節によってはゆず湯やだいたい湯を入れ、楽しめるようにしている。	日曜日は、家族の面会が多いため、入浴日としていない。週3回は、入浴していただくように声かけを行っている。また入浴時間は、15時～17時の夕食前に入浴していただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	天気のいい日には布団を干して いる。夜間不眠になる方には昼 間に運動を促したり、夕食時に ビールを飲んでいただいたり、 個々に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	医療ノートを作成しており、誰 でも見られるようにしている。 症状等は細かく記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	個々の得意なことを理解し、料 理や畑仕事など力を発揮できる よう支援している。許可がある 方には晩酌をして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	希望に応じて買い物へ同行し ている。又年2回家族の了解を 得て温泉旅行に出かけている。	年2回、職員・本人・家族参加 による旅行を企画し、グループ 全体で希望者を募り行ってい る。また、ホームで亡くなら れた方の墓参りに入居者・職 員で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	可能な方はお金を所持している 。又家族よりお金を預って必 要時見守りにて使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自室で子機を使用し電話して頂いている。ポストは近くにあり可能な限り自分で投函して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中はカーテンを利用し光の調節している。壁には季節の絵画などを飾り季節感を取り入れている。	共用の空間は、花や絵画、入居者の作品を飾り、居心地良く過ごせるように配慮している。室内の温度も朝エアコンを付けて、28度くらいになるように設定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを2ヶ所に設置しており、気のあった利用者同士座って過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や寝具を持参していただき、相談しながら一緒に部屋作りをしている。仏壇を持参されている方も数名いる。	自宅で使用されている家具を持ち込み、自由に配置し、自宅の部屋と同じようなレイアウトになっており、落ち着けるような空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホワイトボードにメニューを書いていたいたり、お花を生けていただいたりしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない